幼児体育における学習内容と体育指導に関する一考察

Consideration for learning contents and physical training in physical education of young children

伊藤　照美　Terumi Ito
（愛知学泉短期大学幼児教育学科）

抄　録

保育士を目指す養成校では幼児体育の授業を担当する教員として，運動あそびや身体表現を通して指導するための段階的な方法と，ポイントについて教育指導する必要がある。本学の必修科目である幼児体育Ⅲでは，リズム体操やリズムダンスを通して，学生が実習先や，卒業をして現場へ出た時に必要である保育士としての知識や技術，資質を身につけることを学習している。また，この授業では，保育のなかでおこなわれる創作活動を実践し計画するための知識と技術の習得を目的としている。学習内容の理解度と体育指導法についてどの程度学生が認識しているか，授業アンケートを作成し，学生がこれからの効果の有効性を感じられるような，授業展開を目指すことを検討した。また，将来保育者となった際に必要な運動技能と知識の習得方法について検討し，学生が創作活動をすすめる中で，表現力や指導力，コミュニケーション能力の低下などについての考えをまとめた。

キーワード

幼児体育 physical education of young children，身体表現 bodily expression，体育指導 physical training

目　次

1　緒論
2　方法
3　調査内容
4　授業展開と学習内容
5　結果
6　考察
7　まとめ

1　緒論

3.4.5 才の子どもの運動発達の適性として運動環境には，幼児期に歩・走・跳の運動，リズム運動，リズム体操，体力づくり運動，道具を使った運動，平均台・マット・鉄棒・集団あそび・水遊び等の運動が望ましい。このあそびを通じて，さまざまな運動や動きを体験させることで，バランス感覚（平衡性）・リズム感・器用さ（巧緻性）・素早さ（敏捷性）が発達していく。このような運動技能を身につけるには 6.7 歳頃から個人差が大きくなる。この要因として，5 歳頃までに基本的な動きが経験できない子どもは段差につまづきやすい。この段差を乗り越えるには，5 歳頃までにあそびの中で多様な動きを経験することで，その後の成長とともに運動技能を身につける為の大きな影響であることが言える。そのため，幼児期にからだを動かすことが最も重要である。

運動神経の良さは生まれつき持っているものではなく，幼児期の運動環境に大きく影響され，あそびの中で運動を経験し，楽しみながら身につけていくことである。その為には，保育所や幼稚園などで子どもと関わる保育者が，乳幼児の発達段階に合った幼児期の運動の方法や指導法について理解し，実施することが重要である。

文部科学省策定の幼児期運動指針では，幼児が楽しく体を動かして遊んでいる中で，多様な動きを身

に付けていくことができるように，様々な遊びが体験できるような手立てが必要となる。保護者や，幼稚園，保育所などの保育者をはじめ，幼児に関わる人々が幼児期の運動をどのようにとらえ，どのように実施するとよいのかについて，おおむね共有していくことが重要である[1)]。このように，子どもの運動あそびについて，将来保育士になる学生は，運動技術と知識を身に付けておかなければならない。

保育士を目指す養成校では幼児体育の授業を担当する教員として，運動あそびや身体表現を通して乳幼児に指導するための段階的な方法と，ポイントについて教育指導する必要がある。学生は専門的な知識や技術を理解し，子どもたちが楽しくからだを動かすにはどうすればいいのか，幼児教育や保育の現場で役立つ教材を考えることも必要である。そのためには，学生が実習先や卒業してから現場へ出た時に必要である，保育士としての資質を身につけなければならない。

本研究では，本学必修科目である「幼児体育Ⅲ」の授業実践を報告し，学生がどの程度理解したか，どのような評価をしたかを明らかにすることにより，幼児体育を教える上で効果的な学習内容であったか，幼児期において必要とされる体育指導のあり方を検討する。また，学生がこれからの効果の有効性を感じられるような,授業展開を目指すことを検討する。

2　方法

2.1　調査期間

平成 30 年 4 月

2.2　調査対象

女子短期大学　幼児教育学科　2 年生 92 名（必修科目）データーの記入漏れなどは変数ごとに欠損値として扱った。

3　調査内容

3.1　授業内容の理解度について

授業全般の理解度について 14 項目の質問を作成し 5 件法を用いて得点化した。

3.2　授業内容と幼児体育の表現指導への影響について

授業内容の理解度について 14 項目の質問と幼児体育の表現指導について 8 項目を作成し 5 件法を用いて得点化した。

3.3　自由記述として

「この授業を受けてよかったところ」「この授業を受けて悪かったところ」を記述してもらった。

3.4　分析方法

質問項目に対して,「当てはまらない」を１点,「やや当てはまらない」を２点,「どちらでもない」を３点,「やや当てはまる」を４点,「当てはまる」を５点として各質問項目の得点を算出した。質問項目は以下のとおりである。（表 1）（表 2）

3.5　質問項目

表１　授業の内容について

1	授業の内容はわかりやすかった
2	授業の内容に対して時間配分は適切だった
3	授業に進み方は，早すぎることも遅すぎることもなかった
4	授業時間がむやみに延長，短縮することはなかった
5	授業の進行を理解するのにグループワークの学習体制は適切だった
6	学生が決めたグループメンバーの決め方は適切だった
7	グループワークでの創作，発表は楽しかった
8	創作活動におけるグループ活動は良かった
9	グループ活動では十分話し合いながら進めた
10	授業内容は興味の持てるものであった
11	授業内容は将来．現場で役立つものであった
12	授業に積極的に関わることができた
13	教員の指導，アドバイス，助言のタイミングは良かった
14	教員は学生の主体性を尊重していた

表２　課題発表について

15	積極的に意見を言うことができた（主体性）
16	色々なアイディアが浮かんできた（主体性）
17	真剣に考えることができた（主体性）
18	みんなと仲よく話し合えた（協力性）
19	話し合いは良い雰囲気だった（協力性）
20	話し合いは楽しかった（協力性）
21	みんなと協力し合って練習ができた（練習）
22	楽しく練習ができた（練習）

4　授業展開と学習内容（表 3）

4.1　学習内容

⑴身体運動に関する基本的な知識を得るとともに，各体操を習得する。

⑵保育中で取り上げるリズム体操やリズムダンスに関する教材を作成するために幾つかの幼児体操を習得し，必要な知識や技術，指導方を学ぶ。

⑶グルー創作に関する知識や技術を得るとともに創作力を学ぶ。

⑷運動遊びの安全管理や体育指導を身につける。

4.2　学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

主体性―自分のやるべきことは何かを見極め，自発的に取り組む

実行力―積極的に行動し，自分の考えを実行に移し，成果をだす

課題発見力―自分のスキルを分析し，課題を見つけて対処する

創作力―アイディアをだし，チームで協力して実践する

発信力―相手の意見を理解し，自分の考えを発信する

傾聴力―相手の意見を正確に理解し，チームで協力し実践する

規律性―ルールやマナーを守る

表 3　授業展開

回数	内容
1	オリエンテーション
2～4	グループ分け　身体表現をテキストから選曲し練習する
5～7	グループ活動　身体表現をアレンジ
8～10	幼児体操　2～3 曲の体操を習得する（子どものためのフォークダンス他）
11～13	共通曲に合わせた幼児ダンスの創作
14	発表
15	まとめ

5　結果

5.1　授業内容の理解度について

授業内容の理解度について分析したところ，14 の質項目で 4.0 以上の平均値が示された。特に質問項目の高い平均値は「授業内容は将来，現場で役立つものであった」は 4.35,「授業内容はわかりやすかった」は 4.30,「授業に積極的に関わることができた」は 4.22,「グループワークでの創作，発表は楽しかった」は 4.20,「授業時間がむやみに延長，短縮することはなかった」は 4.19 であった。この結果から，学生が主体的に授業へ取り組める環境を整えていたことが示された。（図 1）

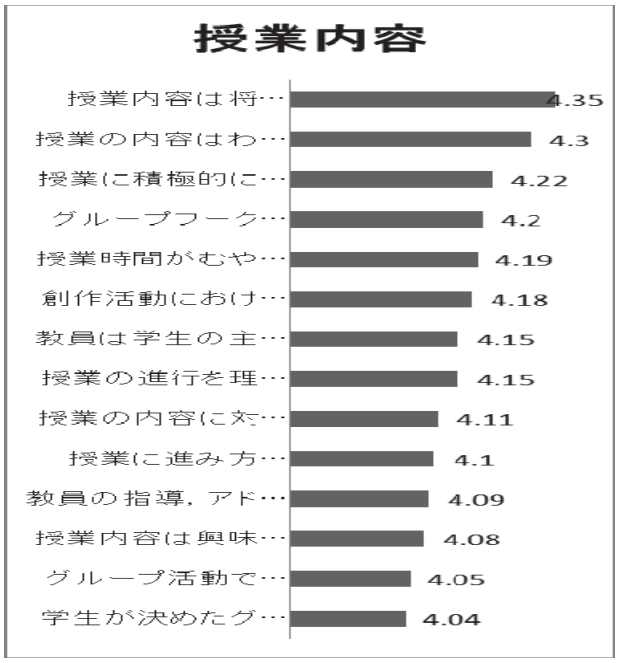

図 1　授業内容の理解度平均値

5.2　授業内容による幼児体育の指導方への影響について

授業全般の内容についての質問と課題発表について相関分析したところ，27 項目の有意な結果が出た。特に高い結果として，「グループ活動では十分話し合いながら進められた」と「話し合いは楽しかった」の質問項目の相関係数は 0.642 であり 1%水準で有意な相関が認められた。この結果から，時間をかけて話し合いをすることで，グループの協調性が強くなることが示された。「学生が決めたグループメンバーの決め方は適切だった」と「話し合いは良い雰囲気だった」の質問項目の相関係数は 0.605 であり 1%水準で有意な相関が認められた。この結果から，学生が創作活動に対して，積極的に取り組もうとする姿勢が示された。「グループワークでの創作，発表は楽しかった」と「話し合いは楽しかった」の質問項目の相関係数は 0.593 であり 1%水準で有意な相関が認められた。この結果から，グループ活動により，ダンスの創作をすることが，苦痛でないことが示さ

れた。「教員は学生の主体性を尊重していた」と「話し合いは楽しかった」の質問項目の相関係数は0.560であり1%水準で有意な相関が認められた。この結果から，学生は教員からアドバイスとポイントの助言があることで，授業へ意欲的に取り組めることが示された。「授業の進行を理解するのにグループワークの学習体制は適切だった」と「楽しく練習ができた」の質問項目の相関係数は0.531であり1%水準で有意な相関が認められた。この結果から，グループ活動で創作や発表をすることは意欲向上につながることが示された。

6　考察

6.1　授業内容の理解度について

幼児体育Ⅲの授業内容の平均値の結果が4.0以上であったことは，学生が保育の知識や技術を習得しようとする意識の高いことが示されたが，このような結果が得られたのは次のような理由が考えられる。

幼児体育Ⅲでは，身体表現やリズム体操を中心とした授業内容で，創作活動を実施している。そのため，個人での活動ではなく，グループ活動を主とした授業展開を行っている。「授業に積極的に関わることができた」の結果については，学生が取り組みやすい授業の環境が整っていたことが考えられる。創作や発表が楽しくできたことは，グループの話し合いを進めるにあたり，自分に持っていないアイディアなどを発見したり，人の話を聞く力をつけることができ自信に繋がったことが考えられる。

「授業内容は将来，現場で役立つものであった」の結果について，実践を通して，創作を披露するための説明や，発表をすることで，人前で声をだすことや恥ずかしさがなくなり，自信が持てたと考えられる。

保育現場では，毎日元気いっぱいの子どもたちと関わるため，体力や忍耐力が必要不可欠である。また，コミュニケーション能力や，周りの意見を受け入れる協調性や，何事にも前向きで活発でいなければならないことも保育士の資質の１つでもある。

6.2　授業内容による幼児体育Ⅲの指導方への影響について

授業内容の理解度による幼児体育の指導方への影響について，グループワークでの進行が学習意欲を高め，グループ学習での授業方法が効果的であることが示された。このような結果が得られたのは次のような理由が考えられる。今回の結果により，グループワーク学習の利点が幾つかあげられる。まず１つ目に，グループ間で達成しようとする目的を仲間で話し合い，協力し合って課題や作業に取り組むことでお互いの意欲を高め合うことができる。２つ目に，仲間意識が高くなり，それぞれの役割も決まってきたことで創作活動がスムーズに行える。また，創作活動には個人のアイディアを出すことは困難であるため，そこには仲間の存在が必要であり，お互いに意見を出し合うことで新たなアイディアを引き起こすことができる。仲間と考え，表現し合い，話し合いながら活動することで学習意欲が高くなると考えられる。グループワーク学習の焦点となることは，話す・聞く・書くといったコミュニケーション能力を養うことでもある。

6.3　授業内容の自由記述

⑴この授業を受けて良かったところ（参考資料として重複した幾つかの記述を抜粋し，本文のまま記載する）

①保育指導法と表現力の習得

・保育の現場で役立つことばかりだった
・現場での声の掛け方を学べた
・現場で使えるものがあって良かった
・保育所や幼稚園で行う体操を学べた
・表現が身についた
・遊びのルール説明を前に出て説明することで，人前に立って話すことを少し克服できた
・皆の前で立っても大丈夫
・子どもたちの事を考えながらダンスを考えることができた
・将来子どもたちに自分たちが振付けて見せることにつながるので経験をして良かったと思う
・こどもがどんな動きならできるかを考えることができた
・施設実習の際，エビカニクスを踊ることがあり，踊ることができた
・子どもがよろこびそうな曲をしれた
・主体性が伸ばせると思った

②コミュニケーション能力の習得

・周りの人と協力して考える楽しさを学べた
・コミュニケーションをたくさんとれてよかった
・グループ内での発言ができた

・友だちとの仲が深まった
③苦手意識の克服
・ダンスが好きになった
・モチベーションにつながった
・グループ皆でアイディアを出し合うことで自分の想像よりもまた広がるからそこがいい
・アイディアを出して行うことで自然と話がはずむ
・ダンスが楽しいと思えた
・音楽と体操の楽しさを同時に実感できたところ
・苦手でも取り組めるようになったところ
・始めは少し恥ずかしさがあり，ていこうがあったがみんながしんけんに楽しく行うことで，自分も楽しく行えた
・グループでダンスをしてみて友達と協力して１つのことを完成させる力が身についたと思う

④学習環境
・先生からアドバイスをもらいながらできた
・話が分かりやすかった
・グループで話し合いの際に時間を十分もうけてくれたためじっくり話し合えた
・先生の授業の進行の仕方がスムーズで楽しかった

⑵この授業を受けて悪かったところ（参考資料として幾つか抜粋と本文のまま記載する）
・練習時間が短かった
・人まかせにしてしまうところもあった
・案が全然でてこなくて苦労した
・話し合いが全然進まなかった
・作ったダンスが幼児レベルだったか結局わからなかったので最後に評価がほしかった
・ダンスが苦手で大変だった

7　まとめ

保育士とは，専門的知識や技術をもち，子どもの保育や保護者に対する指導をおこなう仕事である。子どもに対して熱意と責任感が必要でもある。また，我慢強く柔軟性があり，発想が柔和で思いやりがあり，体力に自信がある等があげられる。子どもの前では体操や踊りを披露することもあり，最低限の技術に加え，表現力や自信と勇気も必要である。そこで，幼児体育Ⅲでは専門的知識や技術，表現力をつけることを学習内容に取り入れている。しかし，最近の学生は人前で表現することが苦手であり，前に踏み出そうとする意識が弱いことが考えられる。当然ながら，保育士にとって人前に出ることは必要不可欠である。

今回，アンケート調査と分析の結果から，表現力や子どもに伝える力，指導力やコミュニケーション能力を身に付けることが授業の中で少なからず身についたことが示された。また，必修授業であるため，中には体操やダンスが苦手な学生もいた。しかし，グループワークでの取り組みにより苦手意識が克服されたことも示された。学生の自由記述から授業の学習内容が実践を通して進行することにより，体育指導法の理解が得られる結果が表れた。

本研究において，学生が将来，保育士として現場に出た時に役に立つ授業内容であることと，授業の進め方については概ね理解を得ることができた。また，授業へ取り組みやすい教員の言動や動きといった学習環境も影響することが示された。今後は子どもの発達段階と実態に合わせた授業展開と，適切な教材を使用することが今後の検討課題である。

引用文献

1) 文部科学省　幼児期運動指針

参考文献

砥堀雅信　土田了輔　永木耕介
幼児における運動遊びと体育指導に関する一考察
上越教育大学研究紀要 15(2), 223-231, 1996 上越教育大学
山本秀人　幼児体育における教科内容と教材の関係　日本福祉大学社会福祉学部・日本福祉大学福祉社会開発研究所 『日本福祉大学社会福祉論集』第 114 号 2006 3 月
高田佳孝　「幼児体育」における教材開発に関する一考察
夙川学院短期大学　教育実践研究紀要　2016
古谷朝映子　長谷川聖修　幼児の主体的な運動活動を支える指導者の役割:−保育所における体操教室からの一考察−
体操研究 13(0), 11-19, 2017 日本体操学会
三井登　幼児期の運動遊びにおける指導方の確認　帯広大谷短期大学紀要（第 50 号）2013　3 月

（原稿受理年月日 2018 年 12 月 5 日）